

114  
A 4209



過日參省面晤ノ際縷陳セシ學校收入金ノ事尚又  
左ニ其大概ヲ陳述ス希クハ高覽アラシーヲ

規ニ因レハ又學校納金ノ如キモ此例ニ從ハザルヲ得サルモノ  
ニ似タリ然ルニ學校ハ他ノ各廳ノ比ニアラス夫司法ノ裁判  
所陸軍ノ鎮臺文部ノ督學局等其ノ他ノ諸寮タル固  
ヨリ各省ノ分課ナレハ此等ハ其納金ヲ收入スルモ謂ナキニ  
非スト雖氏學子校ノ如キに至リテハ然ラス全ク各廳ト一視  
ニスベカラザルナリ夫今日ニ在テ學校ニ三ノ區別アリ曰官  
立<sub>此名アルハ止ラ</sub>公立私立ナリ其官立ナルモノハ人民一般  
得サルモノ

大正十一年  
大隈侯爵  
贈月

ヨリ出ス所ノ租税中其幾分ヲ以テ其費ニ充テ文部省直轄スルモノナリ公立ハ其設置セル所ノ人民ニ賦課シテ學校費ヲ出サシムルモノナリ私立ハ學校資金ノ本位ヲ以テ政府或ハ人民ノ共同ニ資セズ各個自立ノ私設ナリ故ニ泰西各國ノ如キ其官立ノモノ海陸軍學校ヲ除ク外ハ稀有ニシテ公立私立ノモノ極テ多シ故ニ概シテ官立學校ナシト云フモ可ナリ其官立ノモノ寡ナク公立私立ノモノ多キ所以ノモノハ他ニアラス固ヨリ學子問ハ人ノ以テ人タル所ノモノヲ學ブモノナレハ敢テ他ノ力ヲ假ラス自ラ奮勵發興起シテ脩學セサル可カラサルモノナレハナリ雖然今我國ノ景況ヲ

以テスレハ人民概子貧困ニシテ學資ヲ自辨シ就學スル能ハサルモノ比々是ナリ加之我國ノ人民タルヤ其身ヲ政府ニ委子其智識ノ開不開ハ一ニ政府ノ教養至ルト至ガルトニ付シ敢テ其身ノ勉不勉ヲ責ムルモノナシ之レ數千年來習慣ノ然ラシムル所ニシテ方今ノ時勢ニ至ルモ依然トシテ其旧慣ヲ脱スル能ハサルモノ滿天下皆是ナリ故ニ學校ハ官力ヲ仰カスシテ人民自ラ設立スベキモノト雖氏前條ノ事精悉ヲ以テ今一朝ニシテ其弊ヲ矯メントスルハ最モ難キ所ナリ此事ハ積ムニ歲月ヲ以テシ漸ヲ以テスルニアラサレハ其弊ヲ一洗スル能ハサルガ故ニ今暫ク已ムヲ得サルノ措置ヲ

以テ官ヨリ學資ヲ補助スルモノニシテ固ヨリ學學校ノ目的ニア  
ラサルナリ譬ハ今開成學學校ノ如キ位置ニアル學學校ヲ永世不  
朽ニ維持スルノ制ヲ立ツルハ百數万ノ資本金ヲ一時ニ得テ  
其金額ヲ貸付シ其利子ヲ以テ學學校一切ノ費用ニ充テ確  
實ナル方法ヲ設クルニアラサレハ能ハス然ルニ今日ノ學學校タルモ  
ノハ官公私ヲ問ハズ概シテ資本金ナク文部省直轄學學校  
ノ如キハ同省定額ノ増減ニ從ヒ其補助金モ亦増減ス故  
ニ補助金多クハ從テ其教養ノ道ヲ擴張シ寡ケレハ又  
從テ退縮ス是以朝ニ定ムル所ノ目的暮ニ變更スルノ嘆ナ  
キヲ免カレス是他ナシ資本金ナキヲ以テ時ニ從テ浮沈シ

僅カニ今日ヲ維持スルノミ現ニ開成學學校ノ如キ其補助金  
ノ不足セル月ニ方リ臨時必需ノ學用書器藥品ヲ購  
入シ生徒受業上ノ缺ナカラシムルモノハ唯受業料及不  
用書器ヲ賣却セシ納金ヲ以テ充ルノミ故ニ今學學校ノ  
納金ヲ收入スレハ大ニ教育上ノ進歩ニ関係スルナリ今後  
人智日ニ開ケ月ニ將ムニ至リテハ彼泰西各國ノ如ク又官  
ノ資助ヲ假ラスシテ遂ニ公立私立ノ學學校全國ニ星布  
スルニ至ルベシ今時ニ於テハ後日ノ景實ヲ收メン為メ先ツ  
其種ヲ下スモノナレハ他ノ各廳ト一視シテ普通ノ事務  
ヲナス所ト見做ス可ラス文部省直轄學學校納金ノ如

キハ府縣學校へ配付スル同省委託金ト同視シ因旧收  
入セシメサランコトヲ是レ必竟人民教育ノ道ヲ擴張スル  
ノ意ニ出ツル所ナリ故ニ今官金ヲ用ヒ其償還ハ現貨  
ヲ以テスル能ハスト雖氏異日此資ヲ以テ百工技術及  
理財其他法律等ヲ有價ノ學士ヲ輩出セシメ邦國ノ  
用ニ供センコト誓言テ生等ノ義務カトスル所ナリ前款勸ト  
高慮アラントヲ是祈

明治八年十二月

中督學子畠山義成

大藏大輔松方正義殿